

「家がいいね」 第140号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2016.1.5

見送る時間、一期一会

流れる時間の速さは一定なのに、1年の終わりと始まりを隔てる時は、なんと味わい深いものですね。新年を待つ、外宮は夜の森の中で静かでした。いつものように大篝火の近くには、お餅を焼く道具を抱えた市民が、立ち上がる火の粉を眺めていました。

私たちは明日の朝も今日と同じようにやっていると信じて疑いません。それが生きていくこと、生活することとも言えます。そうならないかという覚悟は、つい忘れがちです。一期一会、今の時間しか実在しないと思えますか？ 別れ際に見送りさえしません。相手が見えなくなるまで、ジッと見送る人を私は知っています。それこそが相手を思い、大切な時を思う姿勢だと感じます。



いのちの響きに寄り添って

南勢地域緩和ケアネットワークの市民公開講演会です。在宅ホスピス医の内藤いづみ先生と、歌手の小林啓子さんが、語りと唄で、あなたに呼びかけます。1回きりの命ではなく、受け継がれる「いのち」を考えましょう。それは自分らしく、住み慣れた地域で、最期まで生きることでしょう。地域緩和ケアが広がりますように。

2月7日(日) 13時半～

15時半 参加費は無料

会場は伊勢日赤やまだホール
事前申し込みが必要ですので
詳しくは、ネットワークからの
チラシをご覧ください。



生きること、伝えること。

みえ生と死を考える市民の会のミニ講演会です。
AYA世代(思春期・若年成人)
のがんについて語って戴きます。

講師 廣田圭さん

伊勢市出身。昭和58年生まれ。
20歳の時に精巣腫瘍発症。抗がん
剤治療、手術を経験。現在は、医療ノ
ーシャルワーカーとして総合病院に勤
務する傍ら、がんのピアサポーター
として活動。1児の父親となる。



サルさんたちも、アベ政治を許しません

113号のサルさんに今年の
干支で再登場してもらいました。

処世訓で有名な三猿は、余計なことは「見ざる、聞かざる、言わざる」になっていきますが、それが賢いという例えになっている裏の意味は「長いモノには巻かれろ」です。情報を隠す者には都合の良いことわざです。

54号の「朝三暮四」のサルさんのように、言葉でだまされないよう気をつけましょうね。下の写真のサルさんたちの心の声を聞いてください。

困るものを見るでゴザル
隠されても聴くでゴザル
おそれずに言っでゴザル



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可

強化型診療所への移行のお知らせ
4月から在宅の体制を強化し、神戸クリニック(野口医師)、さいとうホームケアクリニック(山村医師)と協同の在宅チームを形成します。詳しくは、次号で。

2月21日(日) 13時半～15時半。
津市 三重県総合文化センター 大研修室。
一般300円 会員は無料(事前申込み不要)。